



ほんわか

令和7年7月15日
保健だより3年特別号
小松市立芦城中学校

心と体の健康講座 ～思春期の性と心～ を開催しました

7月11日(金)産婦人科医・佐竹 紳一郎先生に富山県からお越しいただき、心と体の健康講座を開催しました。講座後の皆さんの感想からは、なんとなく知っていた“性”に関することについて、深く考える良い機会になったことが伝わってきました。「若い時期の妊娠が良いかどうか」、「中絶についてどう思うか」など性について考える機会をたくさん持ったり、様々な考えと触れ合ったりすることにより、その後の自分のとる行動が変わってくると思います。



以下に皆さんの感想を紹介します。感想を読み、お家人の人や友達と話し合う時間をもってもらえると嬉しい思います。

★みんなの感想



高校生の妊娠の話が一番心に残りました。「望まなかつた」それだけの理由でお腹の中にある命を手放すことはあまりにも無責任だし、自分と相手の行動に責任をもつことが大切だと分かりました。自分も相手がいて、これからについてすごく考えさせられることがあったので、今日のお話で教えてくださったことを忘れず、これから生きていきたいです。お腹の中にいる命、子ども、大人、みんな命の重みは変わらないし、自分の行動に責任をもって相手も理解して、話し合って、今とこれから自分自身を大切にしていきます。今日はお話、ありがとうございました。

責任を今の私はまだとれないで、それに伴った判断力をつけ、行動をしたいです。私は最近はそれほどでもないけど、昨年までとても生理がつらかったです。でも、学校ではあまり言ったらダメという風潮があり、少し嫌だったので、今日のお話で生理がとてもつらいもので、気を使って暮らしていくことを伝えてくれて嬉しかったです。そして、自分が生理で苦しいことは間違いではないし、悪いことでもないんだと思えました。今はだいぶ生理痛が軽いけど、また重くなったら、自分をしっかり労わるようにしたいです。

性とは、悪いことではないけど、危険な点がいくつもあり、正しい行動ができるように性について知ったり行動の一つ一つに責任をもつたりすることが大切だと分かった。また、男子の知らないところで、女子が色々な苦労をしていると知ったので、少しでも気配りができるように意識していきたい。最近、心がモヤモヤして親に必要以上に当たってしまうことがあり、気を付けないといけないと思っていたけれど、反抗することは決して悪いことではないのだと思い、そのことを知ることができてよかったです。

今日聞いて一番心に残ったことは、それぞれ一人一人に違った趣味があるようにLGBTQと呼ばれる特性を持っていてもそれは何もおかしなことではないということです。これはとても大事なことだと思ったし、そういう人たちを特別視したりせず、なるべくフラットな目でみてあげたいと思いました。また、最初の「何でも見てみないとわからない」というお話、本当にその通りだなと思いました。先生からお聞きしたことの中にも沢山知らないことがあったのに、あれらの場所に私自身が行っても絶対に新しく知ることがあると思うからです。今日は興味深いお話を本当にありがとうございました。

はじめは、友達の方をチラチラ見てニヤニヤしていたりして、ふざけながら聞いてしまっていました。でも、話が進むにつれて、女性の生理の辛さや、高校生と大学生の望まない妊娠、ネットの怖さなどを知り、真剣に話を受け止めることができるようになりました。今回聞くことができた貴重な話を自分の中で風化させず、今後の自分に生かそうと思いました。

異性と関わっていく上で、楽しいこともある反面、危険なこともあると分かった。これから性に危険があることを頭に入れながら過ごしていきたいと思った。また、今まで生理は「汚いこと」と感じて、男子にバレたくないと思ったり、友達にもあまり話したくないと思ったりしていたけど、今日の話を聞いて、生理は子孫を残していくために必要なことで、「汚いこと」ではないと知ることができた。これから先、何があるか分からぬけど、自分の行動に責任をもって後悔のないようにしていきたい。

世界の色々な場所に訪れて、実際に見てみないとわからないことや新しい発見をしている先生の話を聞いて、私も将来色々な景色を見に行きたいなと思いました。また、知らないことも知っていると思っていることも実際に体験してみることを大切にしたいです。赤ちゃんができることは当たり前のことではないとても奇跡の連続で、私たちは今生きているのだとはじめて知りました。男性と女性、それぞれの悩みを先生が伝えてくれてよかったです。

今回の講演を聞いて、自分の知っている情報とは違った視点でお話が聴けて、性について理解が深まり良かったです。命を生み出すというのは、簡単なことではなく、とても尊いことだと分かって、これから異性と付き合うかもしれない上で自分の行動や発言に責任をもとうと思いました。これから的生活で自分と相手を大切に思いやっていきたいです。

佐竹先生の話を聴いて、性は危険だけど、とても大切だということが分かりました。自分の性についての理解も深めなければならないけれど、異性のことについてもしっかり理解して付き合っていきたいと思いました。自分が今ここにいるのは、奇跡といえるくらいのことだと分かったので、もっと親に感謝したいです。若い時に妊娠して、子どもが欲しい人がいる中で、子どもをおろすという決断をしなくてはいけないことが苦しいと感じました。そういうことにならないようにしたいし、自分の性と向き合って生きていきたいと思いました。



反抗期は、悪いことだと思っていたけど、全然悪いことではないと知れて良かった。男子と女子の壁はすっごく高いと思っていたけど、お互い理解し合おうと思えば、きっと壁は越えられるのだろうなと感じた。子どもを産まなかった高校生女子の話の時、自分も手術中は親に手を握ってもらいたいと思っていたけど、佐竹先生のお腹の中にいる子は一度も手を繋いでもらったこともないし、抱きしめてもらったこともないという意見を聞いて、確かにそうだなと思った。大切な命を1つなくしてしまうことはとてもつらいと思った。だからこそ、ちゃんと1つ1つの行動の意味を考えて、適当に過ごさないようにしたいと思った。私は生理痛がそれほど酷くなく、腰が痛くなる程度だけど、先生の言葉は自分の頑張りを褒めてもらえたような気がして嬉しかった。誇りをもって過ごしていきたい。



生徒代表よりお礼と感想を伝える様子